日本勤労者山岳連盟・静岡県勤労者山岳連盟

裾野麗峰山の会 (sine１９９４)

第２２期・６巻　２０１６年12月号　ＮＯ．１８８

仲間と仲間を結ぶ機関誌

れいほう

Susono Reihou Alpine Club

山行ＮＯ．１７１２
１１月２６日（土）小楢山・南西尾根

もくじ

表紙
山々のブログ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2p
経過報告　全国連盟・県連盟・東部ブロック会議・・・・・・・・・・・3p
会山行報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4p
個人山行報告
今後の予定
その他・四方山話
今月のベスト・ショット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15p

「山々のブログ」　Ｎｏ．１６４

後藤隆徳

笠ヶ岳・抜戸岳東尾根

苦しい蟻地獄のようなラッセルが延々と続いた。こんなハズではなかったと思った。今までやって来た冬山経験なんか、全く役に立たなかった。

ここは北アルプス・笠ヶ岳抜戸岳東尾根。９９年冬山合宿。仲間６名でやって来た。今回は富士宮・あさぎり山の会２名参加の合同パーティー。

たった５０ｍ上るのに１時間掛かった。ダブル歩荷もやった。（トップは荷物を置いて、空身でラッセルし、一定の距離上ったら、下って荷物を背負い上げる）だから、山は分からない。だから、山は面白い。だから、山は難しい。だから、山は奥が深い。だから、いつまでも探求するのだろうか・・・。

荷物は最大限軽量化でＳＴと私＝２２ｋｇ、ＳＩ＝１９ｋｇ、Ｏ＝１９ｋｇ、Ｋ＝１９ｋｇ、Ｔ＝１６ｋｇ。但しこの重量は、ピッケル・アイゼン・防寒具・ワカンを除いた重量。ひと口に冬山といっても千差万別。奥秩父・八ッ・中央・北・南では、全て顔が違う。

同じ北アでも入山者が多い人気ルートはラッセルの心配はまずない。私は今まで北アの冬山は、槍２回（中崎・北鎌尾根）、奥穂（涸沢岳東尾根～奥穂）、常念・鹿島槍（爺ヶ岳東尾根～鹿島）・白馬（栂池から往復）・五竜・唐松に上って来た。しかし、これらの山はいずれも沢山の登山者がいる。従って余程のことがない限り何時間もラッセルすることはない。

笠ヶ岳は、標高２８９８ｍ。標高差１７９８ｍ。３０００ｍに少し欠けるが、北ア主稜線から外れ、独特の山容は、神秘的なオーラを発している。また、冬は登路が東面に限られ、猛烈な季節風下、東面の不安定で危険なキノコ雪に対処しなければならない。雪崩が多い山としても名高く事故が絶えない。

笠ヶ岳は興味深い山だが、隣の穂高に比べ玄人好みの山ゆえ、登山者は少ない。我々が会ったのは、２パーティー８名のみ。しかも、それは下山時だった。ようするに、今回我々は、どのパーティーにも先駆けてラッセルに終始した。

結果は、２１６５ｍで「敗退・撤退」。上り６時間掛かり、下りは５０分だった。

年末年始に入る冬山として、久しぶりに「未登」に終わった。これが我々の「実力」。戦略・パーティー・軽量化など、改善の余地はあった。また、今回は初めて他会との合同登山だった。それなりに楽しく成果はあった。今後は増えるかもしれない。帰路、もう上った時の苦しみは忘れ、「来年もう一度やろう」と盛り上がった。

（「れいほう」２０００年１月号　ＮＯ．７３に加筆掲載）

写真はネット抜粋

１．１１月度例会報告

１１月１３日（日）生協会議室１０：３０～１２：００
出席者＝後藤・ＫＭ・ＫＫ・ＨＡ・ＭＴ・ＫＳ・ＳＳ＝６名

イ．第４回・理事会報告（2016 年度・第５０期）

２０１６年１０月３０日（日）９：００～１２：００
静岡市清水区役所　第１会議室

【理事出欠状況】

伊豆ＨＣ　（欠）	清水労山：牧野英夫（○）	山の会ケルン：西森輝茂（○）
三島労山：山口美恵子（○）	静岡労山：志村明美（○）	浜松労山：手塚昌幸（○）
裾野麗峰：小松眞明（○）	静岡労山：瀧　茂　（○）	浜松労山：後藤秀人（○）
駿東山の会：近森正彦（○）	焼津山の会：木原政子（○）	（山の会フレンズより移籍
沼津労山：植松久美子（○）	安倍っ子山の会：竹本幸造（○）	
あさぎり山の会：斉藤富夫（欠）	ＮＭＣ　：海野美春（○）	
ふじ山楽歩：加藤秀子（○）	山登歩　：花澤秀治（○）	

１　各ブロック報告

東部Ｂ‥加藤秀子（ふじ山楽歩）　⇒メール資料参照
◎記念誌　較正段階　静岡労山・焼津山の会紹介ページが**原稿未提出**で抜けていた
◎レセプションについて係分担
◎交流ハイク検討

中部Ｂ‥花澤秀治（山登歩）　⇒メール資料参照
◎レセプションについて
◎ふれあいハイク報告

西部Ｂ‥手塚昌幸（浜松労山）
◎記念品　手ぬぐい完成

２．第３回福島の子ども達と夏休み報告　資料Ｐ３
会計報告　訂正　個人寄付　（誤）望月　（正）塩月

３．山の日制定にちなむ取り組みと報告
◎８月１１日　講演会　⇒別袋資料参照
◎ふるさとの山　資料Ｐ３．５
・東部　宝永山　参加１３名・・・**参加団体・数が不明**
・中部　大日古道と井川湖線　参加４９名
・西部　湖西連峰・大知波峠　参加１７名
竹本　実行委員会では　来年も行うなら県で１コースにする
バス利用は、雨天中止の場合も考え検討

４．ベルクバハト隊秋季訓練報告　１０月２３日
後藤　ロープの結び目が８環を通らない場合があった。レスキューとしては問題
ダブルでの下降は、ケガの部位によっては有効であることを確認

５．安全登山講習会　について　⇒資料Ｐ４

６．教育遭対部より　静岡　瀧
事故報告・越年山行計画提出　⇒１０月３１日　瀧さんよりメール配信済

７．東海ブロック雪崩講習会　　⇒資料Ｐ５

竹本　雪崩講習に限らず今後ブロック費で補助して１名派遣し、ブロック内で技術を共有するような体制を検討してほしい

８．５０周年祝賀会について　　資料Ｐ６～１１

◎会場　清水テルサ　７階

◎時間９時３０分～１５時予定

◎会計　中部ブロックより　　司会　志村（静岡）

◎会費　５５００円　　（手ぬぐい７００円、記念誌７００円）

・不足分は、県連から（積立金等使用）補てんする

・会費は　当日　会でまとめて受付へ

・手ぬぐい代は　当日　手塚（浜松）へ

・記念誌代は後日集金

◎参加締め切り　　第２次　　１１月１４日（月）　　１５日中部ブロック会議へ

最　終　　１１月２５日（金）

１０月３１日現在　参加者名簿　　メール添付資料

９．県連交流ハイク　　加藤（山楽歩）　　資料Ｐ１２

チラシのトン汁については未定

県連予算５０００円

参加人数・コース　　各ブロックでまとめ　１月１０日めど　　加藤まで

中止連絡　　前日加藤から　中西ブロック長へ

１０．組織数確認と報告　　小松（麗峰）

１１月末時点の人数を報告　　これが次期全国連盟費納入額になる！

６月に提出した組織表を各理事に配布

１１．第５１期　総会に向けて

各部長・ブロック長　議案書原稿を１月１０日　植松（沼津）まで提出

１２．リニア反対署名　　別袋資料

家族・同僚などより多くの署名を！

１３．２０１７年カレンダー配布

カレンダー代未収　　伊豆・あさぎり・山楽歩

売り上げ収益　２００円×１６８本＝３３，６００円　会計　西森さんに渡しました(植松)

１４．財政より　　西森（山の会ケルン）

静岡どんこうの件

１５、自然保護デー　　木原（焼津）

三島・伊豆・沼津・山登歩から　取り組み報告　きている。それ以外で実施した会は

１６．その他

◎ヒトココについて

◎全登研　参加できる人は良い機会なので参加してほしい

＜日程表＞

2016	日	曜日	内　　容	報告先
	14	月	記念誌のみ購入数	植松
			祝賀会参加者名	植松
	25	金	最終参加者変更	植松

１１月				
	2 7	日	祝賀会費	ブロック受付
			手ぬぐい代	手塚
			組織数（会員数	小松
１２月			越年山行計画	瀧
2017				
１　月	10	火	交流ハイク　人数とコース	ブロック長⇒加藤
	10	火	議案書原稿	植松
	15	日	交流ハイク	

ロ．会行事報告

日　時　　２０１６．１０．３０（日）曇天　　文・小島
山　域　　静岡県勤労者山岳連盟主催　安全登山講習会　＠静岡市清水区役所
大蔵　善福氏（よしとみ・６５歳）講演　「山は偉い・人間形成と教育の場としての登山」
コース　　下土狩１０：００ー清水１１：１０ー区役所１２：３０ー区役所発１６：１０ー裾野１７：３０
参加者　　小松（理事）、後藤、O、小島＝４名

荒天のときこそ山に行く、何かが見つかる

中学、高校時代を過ごした清水を数年振りで訪れた。昔は只の桟橋と工業地帯、木場だった処が今ではさかなセンター、観光客で溢れかえる。思わず、沼津の港湾と同じと感じた。考えることは皆同じだ。日曜で賑わう観光施設で昼食　海鮮どんぶり９８０円で味噌汁、かまの煮付け付き。先日の事件から学習し、注文５分後に『おねーさん、海鮮丼はまだ・・・』

１３時から大蔵氏の講演を拝聴。十八のときから、かの有名な、軍鶏（しゃも）と呼ばれた「今井道子女史」の薫陶を受けた猛者。胸板のぶ厚さと足腰のスリムさが印象的。
講演内容は多岐にわたり、一言で述べることは難しい。本人の脳裏では起承転結が成立しているようだが、凡人には理解が及ばない。以下に印象的な話を、順不同で列記します。

① マッキンリーの風＝２７年、マッキンリーに通い、山頂付近の気象観測を実施。リーダーが成果や知見を尋ねると、ベースキャンプでの気温気圧の傾向と相関があるとの事。この一連の話を整理してみると、大蔵氏の経験や問題意識、努力、知性が見てとれ、とても印象深く、元エンジニアの端くれとして良い勉強となった。以下箇条書きでプロセスを説明します

・チョモランマ北壁で５０ｍ／ｓの風に遭遇し進退極り、冬山最大のリスクは強風と悟った
・マッキンリーの強風で複数の友人を失い、風という運命的な課題を見出した
・マッキンリーやチョモランマの様な高峰の風を調べたが、観測データが無い
・無いなら自分で計測するしかない、長期間のデータを愚直に収集した

・このデータと、ベースキャンプで日常的に計測している、気温気圧の傾向との相関を調べた
・気温気圧が急低下して急上昇する場合、７割の確率で強風が吹く。風は西、東風で、南北の風は少ない。この検出に８年かかった

　この内容と思考過程は秀逸の一言と感じた。
〇明確な目的（遭難を減らしたい）
〇的確な手段（現地の風を測定する）
　　〇粘り強い調査（２７年のデータ積み重ね）
〇実用的な解析（日常的に計測してるデータとの比較）

　凡百な研究者や技術者は、往々にして目的と手段を混同する。また多くのデータとの相関を調べ、グラフを大量に作り混乱自滅する。一方大蔵氏はベースキャンプでの情報という入手容易なデータとの相関を調べた。決め打ちで危険な選択だが、実用的でセンスの良さを感じさせる

② 雪の文化と氷の文化＝比較人類学で、東アジア（主に日本）欧米（特に西欧）とを特定のキーワードで選別して、地形、気候、民族、宗教等との関係を論じる場合が多い。
日本＝温暖湿潤多雨、木の家、穀物食、米食、粒食（御飯）、　　多神教
西欧＝寒冷乾燥少雨、石の家、肉食、　麦食、粉食（パン、パスタ）、一神教
これらがよく言われる雪の文化と氷の文化との切り口は初見で興味深い。言われてみるとその通り。
　大蔵氏いわく、世界的には１．５ｍ以上に積雪地帯には人は住まないとの事。一方日本の豪雪地帯では数ｍの積雪は日常茶飯事。雪の中での暮らし、文化が根付いている。この原因は地理条件。日本では日本海で発生した水蒸気が、シベリア寒気団で運ばれ日本海側では冬は常時降雪。山岳地帯では高度と共に気温が低下し、更に降雪して豪雪。雪の文化が発達した。
欧州やシベリアと言った高緯度地域は寒いが、海から水蒸気が運ばれないので、雪は少なく氷となる。氷の文化が発達。そういえば、日本では雪山をくり抜いてかまくらを作り、エスキモーは氷塊を積み上げてイグルーを作る。

③ 日本の自然は山が産んだ＝日本の自然の多様性は山があるから。
一例として高山植物やライチョウ。これらは氷河期に北方から南下した種が、温暖化で行き場を失い、山岳地帯に残ったもので稀少。仮に山が無ければ絶滅したはず。日本の自然は稀有で後世に引く継ぐべきもの。
　私見だが、日本の風土や自然は、海と風、山による水の循環がポイントと思う。
太陽が海を温め、大量の水蒸気を産む。それが風に乗り山にぶつかる。上昇した水蒸気は結露して雨雪を大地にもたらす。その水が木々をはぐくみ、動物をやしない、山をけずる。川の流れが肥沃な耕地を作り、海にミネラルを補給して、プランクトンをそだてる。水と共に生命が循環して、多種多様で変化に富んだ自然が生まれた。

④ 山に住むのは、悪魔か神か＝東アジアで仙人は、人が山に、と書く。
東アジアは多神教で、山、川、湖、海、大木と全ての自然物に霊性を感じて、崇め敬う。
欧米では神はひとつ。自然は人間が支配するべきもので、山に神はいない。
欧米の登山はスポーツとしてのアルピニズムで１８世紀ころから。それ以前山は魔物の領域で忌

諱された空間だった模様。日本では山岳信仰が発端で奈良平安時代の模様。日本の登山は歴史の長さ以外に、人口比率でも多いとのこと。特に中高年が山に行くのは日本くらい。

⑤ まず行動して気付く、学ぶのは後でいい＝子供の教育に登山は最適。このときなるべく手は出さず、教えない、本人の気付きに任せる、自発性が醸成される場を作る。

私見＝その通り、全くおっしゃる通り。だが、昨今はそれが、簡単には出来ない。帰路Ｏさんも言っていたが、今の社会は余裕がない。失敗してそこから学ぶことは大切だが、安全とか権限、効率、責任、プライバシー保護などが優先され、自由な行動や失敗、事故が許されない。企業の教育でも、安全の為、最初から正解を教える。そして正解以外の行動を許さない。結果応用力の無い、ひ弱な人材しか育たない。凡人には妙案がうかばない。

⑥ 荒天でも山に行く＝山行のとき､天気が悪いと欠席する人が多い｡山は晴ればかりではない。天気が悪いなら悪いなりの、発見や経験、気付きがある。そこから自己責任や危機管理能力を学ぶことが出来る。言うは易し、行うは？？？？

以上、自分勝手な解釈での報告です。
感激共感できる話、首を傾げたくなる話、眠くなる話など多くの知見を得ることが出来ました。大蔵氏とこの会を運営いただいた役員の皆さま､会に誘っていただいたリーダーに感謝いたします。

その他の記述（後藤）

１．登山者は、自然の代弁者＝山・自然は何も言わないので、登山者が山に上り、感じたことを記録に残したり、発露することが大事。漫然と山に上るのだはなく・・・。
２．山は自然の大元＝大げさに言えば、全ての事象は、山から始まっている。その山に上ることは全てを把握することになる。
３．氏は、長野県飯田市出身。現在６５歳。身長は、私よりなかったが、体躯は、鋼の如きだった！！
４．山で多くの仲間を亡くした。その十字架は一生背負って行く。それが私も「安全登山の原点」何故、その結果に至ったか、自問自答し考査し生かすことが、残されたものの使命。
５．エベレストで７０ｍの風に遭った。マッキンリーは２７年通っている。今年も上った。
６．とにかく、山の経験を沢山積みことが大事なことだ。悪天候でも絶対、山に行く。逆に好天気に山に上っても、何も残らない！！
７．山の会に入会は必要。何故なら、仲間は助けてくれる。登山届は、警察に出しても意味がない。助けてくれる仲間に出すのが当たり前だ
氏のＨＰには、「サンガクエントリー」という、登山届システムがある。詳細は不明だが、いずれにしろ「無料」では、限界があるだろう。
https://sangaku-entry.com/login.cgi
８．マッキンリーは、最大風速８４ｍが観測された。気温は－７０度。現在は、大掛かりな観測設備でなく、例えば気温は「炭素棒の曲がり具合」で計測している。
９．植村直巳遭難は「風で飛ばされた」が定説だが、実は当日、登山者が飛ばされるような風は吹いていなかった。従って、植村遭難は、風以外のモノだった。山田昇遭難は、５０ｍ以上の風が吹いていたので、「風遭難」の可能性が高い。いずれにしても、山岳において「風」

が、最大・最強の曲者・難物である。

10. 氏のツアーの参加者は、皆、氏より齢が上で、マッキンリー・ヒマラヤに上っている。これは日本独特なモノで、いかに登山文化が豊かであるかということ。欧米では考えらず、多くの「老人」は、日和見でパイプを揺るがせ、「登山者観察」にいそしんでいるとのこと。

11. 今回の講演会は、久しぶりに「手ごたえのある」ものだった。この秀逸な講演会を多くの会員が聞かなかったことは、はなはだ残念だった。山は常に積極的でありたいものです。

以上

清水丼　まぐろ、シラス、桜エビ

駿河丼　生シラス、生桜エビ

ハ・秋の健康ウオーキング

・１１月１２日（土）晴れ

・コース＝山中湖・交流プラザ「きらら」―山中湖北岸―ママの森―桂川―花の都公園（昼食）―ファナック前―忍野八海

・参加者＝後藤、ＫＹ、ＫＫ、ＨＡ、ＫＭ、ＳＳ、ＯＫ＝７名

一般・１５名　　合計＝２２名

（なお、峰田さんは参加予定だったが、待ち合わせ場所ミスで不参加になった）

山の会で「秋の健康ウオーキング」と題した、一般募集のウオーキングを実施した。山の会だから、本来、ハイキングだが、最近、ハイキングではなかなか参加者が集まらず、今回は目先を変えた。

きらら発８：４５。朝は霧が深かった。次第に晴れて、前日降った雪で真っ白な富士山が素晴らしかった。風もなく穏やかな日和。ウオーキングには、絶好だった。

山中湖を歩き桂川に沿って、花の都公園着。この時期花がない。従って入園料は、通常５００－だが、３００－と安い。更に団体割引が５０－。ただ、客が少ないこの時期、ビアもないのは、ちょっといただけない。

ここで昼食にして、午後は忍野八海まで歩く。八海は土曜日でごった返し、足の踏み場がなかった。富士山ウオーク時は平日なので、改めてその人気に驚いた。トイレ・駐車場など新設されていた。ウオーキングは、ここで終了。帰りのバスの一言では、概ね好評でした。

会計報告（長谷）　　参加費 22 名 ¥74000
バス代¥58320　駐車代¥1000　諸経費¥2000　余剰金¥12680
＊余剰金は、特別会計に計上しました。

４．新入会員＝鈴木さおりさん（手前赤ヤッケ・御殿場市在住）
宜しくお願い致します。

二・会山行報告　１０月度

１．　１０日８日＝鎌倉古道（小島歓迎会）・・・後藤、勝又陽、峰田、沖、長谷、室伏＝６名
２．　１０月２２日～２３日＝両神山・南天山・・・後藤、勝又陽、室伏、秋山、小島、峰田、長谷＝７名

ホ・個人山行報告

１．１０月５日（水）＝富士山山頂・・・小島
２．１０月７日（金）＝富士山・宝永山・・・沖
３．１０月１５日（土）～１６日（日）＝会津磐梯山、会津・博士山・・・後藤
４．１０月２４日（月）＝宝永山御殿庭・・・鈴木

２．１２月度例会報告

１２月４日（日）生協会議室１５：３０～１７：００
出席者＝後藤・長谷・峰田・小島・Ｏ・勝又薫・室伏＝７名

イ・経過報告
１．　県連５０周年レセプション＝１１月２７日（日）・・・小松理事、後藤、諏訪部＝３名
＊会から、昼食代・電車賃を３名分出費しました。
２．　掛橋さんの遭難対策基金が入金された。

服部文祥氏の講演を聴いて

裾野麗峰山の会
諏訪部　豊

服部文祥氏の著作は２冊読んでいる。「サバイバル登山家」と「百年前の登山を旅する」だ。サバイバル登山は食料を可能な限り現地調達する登山だ。

百年前の登山は木暮理太郎、田部重治、ウェストン、上條嘉門次などの山行を当時の装備で再現したものだ。どちらも面白い発想の登山だ。サバイバル登山はピークに立つことが目的ではなく「いかにして食つなぐか」がテーマなので登山と言うより冒険と言った方が適切だろうか。ちなみに氏の本職は雑誌「岳人」の編集である。

その服部氏の講演は期待を裏切らない内容の濃いものだった。本を読んで知っていたとはいえスクリーンに投影される写真の数々は驚きの連続だった。氏の発想の原点はフリークライミングにあると言う。

現在のフリークライミングは最小限の道具しか使わない厳しいルールを自他に課している。しからばその「最小限の道具で登る」というルールを自分の登山全体に展開できないかと氏は考えた。

その結果厳選した最小限の道具だけを持って山に（谷に）入ることにした。最小限の道具とは鍋、食器、ライター、ナイフ、釣り道具そしてタープだ。ヘッドランプやラジオなど電気製品は排除し、夏場はシュラフもマットも持たない。

食料は米５合だけとし、他に塩、胡椒、味噌、醤油を持つことにした。その他の食料は全て現地調達することとした。現地調達の主力は岩魚だ。それを刺身や燻製にして食し、蛇やカエルの皮を剥いで食べる。もちろん山菜、キノコ、イチゴ、ブドウなども採取する。そうなるとルートは当然沢筋ということになる。静岡での講演だからかどうか南アルプス（大井川水系）での写真が多かった。

「シマヘビとマムシは旨い。ヤマカガシは少し味が落ちる」とか「カエルには毒腺があるので皮を剥いたら良く水で洗う」など、とても我々の実践には役に立たない（？）だろうが、興味深い話ばかりだった。

氏はサバイバル登山を冬にも実践したくて猟師の門を叩いた。シカやイノシシを撃ち、解体する。「シカの脳みそは旨い」そうだ。動物を殺す時には罪悪感とも寂寥感ともつかない特殊な感情が心に現れるとのこと。

氏の姿は想像していたよりもずっと痩身だった。やせぎすと言っても良いくらいだ。彼の言によれば「夏場はもっと細くなります。その時の体脂肪率は数％でしょうね」とのこと。

こんな体格で１０泊にも及ぶ厳冬期黒部川横断をよくもできたものだと驚いた（これは食料持参登山）。氏の今後の登山はどんな方向に展開していくのか実に興味深い。

注

１．　氏は、現在４７歳。３児の父。岳人編集は２０年。１９９６年、Ｋ２（８６１１ｍ）登頂。
２．　携帯電話は持たないという。飲酒は止めたそうです。
３．　講演は、２０１６．１１．２７　清水市・清水テルサにて。

講演会風景

左・服部　右・諏訪部

レセプション風景

左・後藤
後藤は以前の岳人原稿
で服部に感謝された

ロ・会山行報告　１０月度

１．　１１日１９日＝大菩薩嶺・・・雨中止

２．　１１月２６日（土）＝小楢山（南西尾根～西尾根）・・・５名

＊好天に恵まれイイ山だった。

＊南西尾根・西尾根とも素晴らしい。

＊前々日の雪が多い所で２０ｃｍ。これまた良かった。

裾野麗峰山の会山行報告書

文・室伏　　写真・後藤

山行番　ＮＯ．１７１２

日　時　２０１６．１１．２６（土）無風快晴高温

山 域　山梨・小楢山（１７１３ｍ）南西尾根～西尾根

コース　下土狩５：００－裾野—御殿場—河口湖—御坂トンネル－塩山—小楢山・南西尾根取り付き８：００－１回目林道８：３２－２回目林道８：５６－１５０８ｍ峰９：４５－小さな岩場１０：２２－幕岩からの道—小楢峠１０：２９—小楢山１０：４３～１１：４０－

小楢峠—西尾根の頭１５５０ｍ１２：００—西尾根—塩平上の林道１３：０７－南西尾根取り付き１３：３６－下土狩１７：００

標高差　南西尾根取り付き９４０ｍ～小楢山１７１３ｍ＝約７７３ｍ

参加者　後藤（L）沖、勝又(陽)、長谷、室伏＝５名

今季初の新雪ハイキング

　下土狩を５時に出て山梨に向かう。前々日の雪で籠坂トンネル付近は路肩に雪。すこし不安になる。あまり山の雪は好きではない。山梨県に入り塩山付近は路肩の雪は見えないところも、小楢山の雪が少ないことを期待する。

　標高の高い登山口（９４０ｍ）から南西尾根を目指すことになる。話を理解せずに標高の一番高い登山口まで車を誘導（結果、今日の下山口、塩平の登山口付近まで車で行ってしまう）。地図確認し、今日の登り口着。表示の看板は無し。道路わきに車を止める土の部分は凍っている。初めからスパッツを装着し登山開始。

南西尾根取り付き

最初の林道

１３５０ｍ付近

　車を止めた脇の林道を行くのかと思ったが、山の斜面の急登に取り付く。道なき道を５分ほどの休憩を入れ直登３０分。舗装した林道にぶつかる（高度２６０ｍ程稼ぐ）、ほっと一息、今度こそ林道を行くのかと思ったが、しかし、期待に反して、すぐの反対側の山の斜面に取付きまた急登。だが、体も少し慣れてくる、また次の舗装された林道に出る。

　休憩して、山の斜面にとりつき尾根に入る。雪も登山開始時は少なかったものの、次第に増て１０～１５ｃｍほどあり、靴に付き歩きにくい。

　高度が上がり、途中、尾根にでてからは、左右の梢のあいだ景観が良い。右側には富士山の雄姿左側には、金峰山の五丈岩。

　そんな尾根を、上の林道から約１時間弱経過したところに、小ピーク（標高 1508m，見難い標識か）景観をほどほどに楽しみながら、疲れもピーク。

ちょっとした岩場を越えて、幕岩からのコースに合流。ここから少し下ると小楢峠着。

　峠から山頂までは１５分、あと少し。１０分程で山頂。急に開けた大展望　凄い。絶景かな、

絶景かな。

正面に富士山と甲府盆地（甲府盆地は雲海に覆われ、幻想的に）右側には、南アルプス全容がクッキリと。初めてのアングル　空澄み渡る。リーダー、「この景観を皆に見てもらいたかった」納得。

　風もなく、ゆっくり時間を、われわれのグループで独占する。景観を楽しみ，勝又さんが作った雪だるまと一緒に昼食、記念撮影。山頂で１時間、下山を開始する。快調に小楢峠を過ぎ西尾根の分岐着。

リーダーがＧＰＳで、登山道の分岐、現在位置の確認し、我々は安心、安全、快調に下る。

今朝、間違えた塩平の登山道入り口（標識は無）に到着。舗装道路を車までブラブラ下った。本日は、温泉ナシで帰路についた。

西尾根を下降

その他の記述（後藤）

１．南西尾根取り付きは、傍らに水道施設がある。
２．途中の林道は、塩平集落下から伸びている。
３．林道は、３月撤退した鼓川コースの１４６７ｍ峰と１６４７ｍ峰のコルに達していると思われる。
４．尾根にブッシュは殆どない。
５．１５０８ｍ峰には、顕著な岩が二つある。
６．１５６０ｍに岩場があるが問題ない。
７．頂上に焼山峠から来た登山者が１名のみ。
８．ここの頂上の展望は半端でない。
９．西尾根の入り口は分かり易い。
10．西尾根は、南西尾根より急でない。
11．西尾根最後のピークは上らず、焼山峠林道に下る。

ハ・個人山行報告

１．　１１月０１日（火）＝高野山・町石道（ちょういしみち）＝九度山駅～大門・・・後藤
２．　＊標高差＝約８００ｍ、７．５Ｈ。ハイカーも多い。
３．　１１月０４日（金）＝金時山～明神岳・・・Ｏ
　＊帰りの車道が長かった。
４．１１月０５日（土）＝位牌岳周遊（北尾根～Ｇ尾根））・・・後藤
　＊位牌岳最短ルート。山毛欅観察も行った。

５．１１月０６日（日）～０７日（月）＝上高地・・・後藤
＊Ｔホテル宿泊した。
６．１１月１７日（木）＝七面山・・・小島
＊山頂は割愛。信者登山が凄かった。
７．１１月２０日（日）＝宝永山・２３５２ｍ峰・・・後藤
＊無風・高温だったが、滑落で２名亡くなる遭難事故があった。

二・今後の予定

０３月０５日（日）　３月度例会
０３月０４日（土）　個人山行
ＮＯ．１７２２　０２月２５日（土）　ハイクの日＝
０２月１８日（土）　個人山行
ＮＯ．１７２１　０２月１１日（土）　リベンジ山行＝大菩薩嶺
０２月０５日（日）　例会
ＮＯ．１７２０　０２月０４日（土）　個人山行

ＮＯ．１７１９　０１月２８日（土）　リベンジ山行＝石割山
０１月２１日（土）　個人山行
ＮＯ．１７１２　０１月１５日（日）　初登山＝県連交流ハイク（東部担当）＝蒲原・大平山
＊電車で行く山
０１月０８日（日）　１月度例会　１５：３０～１７：００
０１月０７日（土）　個人山行
ＮＯ．１７１５　１２月２６日（月）～２９日（木）で調整中　　冬山合宿＝甲斐駒
１２月２４日（土）　個人山行
１２月１７日（土）　忘年山行（ハイクの日・昨年のリベンジ）
矢倉岳（下山後、沼津「はなの舞」で忘年会）
御殿場線・始発で谷峨駅まで乗車
はなの舞　１７：００～１９：００　１１品　鍋＝アンコウとちゃんこ
参加費＝女子４５００－、男子＝５５００－・・・１１名参加
１２月１０日（土）　個人山行
ＮＯ．１７１４　１２月０３日（土）　定例ハイク＝石割山（リベンジ山行）・・・中止
＊申し込みは、なるべく早くお願い致します。

二・その他
１．　来期、組織人員＝来期は１８名。５名退会。
２．　会費の納入をお願い致します。１月末が会計年度です。

ホ・学習会・・・ｐ１２まで行った。

以上